

# スコットランドのバラッド詩とナショナル・アイデンティティ

中島, 久代

<https://doi.org/10.15017/1654598>

---

出版情報 : Kyushu University, 2015, 博士 (文学), 課程博士  
バージョン :  
権利関係 : Fulltext available.



氏名	中島 久代			
論文名	Scottish Balladry and National Identity (スコットランドのバラッド詩とナショナル・アイデンティティ)			
論文調査委員	主査	九州大学	教授	鵜飼 信光
	副査	九州大学	教授	太田 一昭
	副査	九州大学	准教授	高野 泰志
	副査	大谷大学	准教授	武田 利勝

### 論文審査の結果の要旨

上記論文は、スコットランドのバラッド詩を、特に Walter Scott(1771-1832)、John Davidson(1857-1909)、Edwin Muir(1887-1959)の三人の詩人を取り上げながら、ナショナル・アイデンティティの観点から考察したものである。全体は三つの章で構成され、それらの章の題は「英国バラッド詩の系譜と Scott のゴシシズム」、「Davidson のスコティッシュ・アイデンティティへの反発と回帰」、「うたびとトマスとスコティッシュ・アイデンティティのゆらぎ」となっている。

バラッド詩は 12、13 世紀にさかのぼる口承の物語詩だが、1765 年の Thomas Percy による蒐集の公刊をきっかけにそれを模倣した文学バラッドが大きな隆盛を見、1802 年から翌年にかけて公刊された Scott の蒐集・翻案の公刊も多大な反響を呼び、イギリスロマン主義にも影響を与えた。本論文の第一章は、バラッド詩のそうした流れを概観した後、Scott のバラッド集がスコットランドのナショナル・アイデンティティを強く擁護するものであること、そのバラッド集に見られるドイツのゴシシズムの影響も彼の郷土精神の表現になっていることを明らかにしている。第二章は、モダニズム詩人として再評価の高まっている Davidson のバラッド詩人としての再評価をし、出身地スコットランドへの彼の愛着と反発、後期の詩に潜んでいるスコットランド人としてのアイデンティティへの回帰を、産業革命の進展によるスコットランド社会の変質も視野に入れながら、解明している。第三章では、スコットランドの伝説上の予言者「うたびとトマス」の Scott、Davidson、Muir のバラッド詩における描かれ方の大きな違いを分析し、特に、Muir のスコットランドへの帰属意識のゆらぎと祖国批判の姿勢を明らかにしている。

中島氏の本論文は、バラッド詩の系譜の中で最重要な、スコティッシュ・アイデンティティ擁護の詩人 Scott を考察しただけでなく、19 世紀後半の Davidson、20 世紀前半の Muir まで含め、バラッド詩とスコティッシュ・アイデンティティの関わりを考察しているところに優れた独創性がある。ナショナル・アイデンティティが流動的で、個人の見方のぶつかり合いを通して変容し続けるものであることを、つぶさに明らかにしている点も本論文の大きな功績と言える。

以上のことから、本調査委員会は、本論文の提出者が博士(文学)の学位を授与されるにふさわしいと認めるものである。